



# しもなかっ子だより

～年少組 最終号～



令和 3 年 3 月 24 日  
小田原市立下中幼稚園  
文責 久保寺 佳香

子どもたちが大切に育てたチューリップが可愛い芽を出しました。園庭の桜の木もつぼみを膨らませ、春の訪れを感じます。早いもので、入園から一年が過ぎようとしています。



子どもたちの人気者、芝刈りくんが帰ってきました！

令和 2 年度は、子どもたちだけでなく、保護者の方や私たち教師にとっても、今までに経験のない活動に制限がある一年でした。マスクの着用やアルコール消毒、前を向いたまま静かに食べる給食…。子どもが触れるもの全てを消毒し、ものの共有をさせないよう遊びにも制限をしていくことにしました。

しかし、子どもたちはとても柔軟で、新しい生活様式を少しずつ自分たちのものにしてきました。どんな環境の中でも、発見を楽しみ、学びを自分のものにし、友達や教師の刺激を感じながらたくさんのことを身に付けてきました。子どもの成長は、目を見張るものがあり、素晴らしいと感心させられます。年長組になっても、今まで身に付けた力を十分発揮し、新しいこともいっぱい吸収し、もっともっと大きく成長していくことを楽しみにしています。

揺れ動く園生活の中で、子どもたちが笑顔で元気に過ごすことができたのは、何よりも本園の教育に対する保護者の皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝しております。本当にありがとうございました。

## 下中幼稚園 教育アンケート結果

「幼稚園教育の取り組み」についてのアンケートのご協力をありがとうございました。  
結果は、次の通りです。

※対象：下中幼稚園全職員、保護者、下中小学校教員

(1) 下中幼稚園の強み(育ちが見られる項目)は何ですか？

- ①「自然との関わり・生命尊重」
- ②「健康な心と体」

(2) 下中幼稚園の弱み(育ちにくい項目)は何ですか？

- ①「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」
- ②「言葉による伝え合い」
- ③「思考力の芽生え」



地域の方のご指導のもと、いろいろな野菜作りを体験しています。自分で植えた苗を大切に育て、おいしい野菜を収穫して食べることで食への関心が高まります。

(1) について

プラス評価が高かったのは、「**自然との関わり・生命尊重**」と「**健康な心と体**」でした。

本園には、緑豊かな自然に恵まれた環境があります。その自然をより身近にするには、子どもたちの自然への気付きが大切です。下中の自然環境を大切にしながら、そこに育まれる生命の尊さを学ぶべき教育課程を計画的に作り上げていきます。

(2) ー①について

一番マイナス評価が高かったのは、「**数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**」でした。

幼稚園では、日々の遊びの中で、子どもたち自身の必要感から数量に触れていきます。(数を数えたり、重さを感じたり) また、ものの名前を文字にして書いてみたいと願います。このように日々の生活や遊びの中に多くの学びが含まれています。そこで、子どもたちが“ひらがな”

を書くためには、私たち教師はえんぴつの握り方から始まり、字を少しずつ認識させていきます。クレヨンなども正しく持って力強くのびのびと絵が描けるようにする経験を十分に積み重ねさせるとともに、子どもたちが数や文字等に関心をもって遊びに取り入れていくことができるよう環境の見直しを図ります。また、小学校教育とも連携を図りながら、子どもたちにとって必要な力を身に付けさせていくことも大切であると考えています。

(2) 一②について

「言葉による伝え合い」については、いまを生きる子どもたちにとって大きな問題となっています。本園では、園児数が少ない中でも子どもたち同士のかかわりを大切にしてきています。ただ、自分の思いを伝えなくともわかり合えてしまうこともあります。自分の気持ちや考えを、十分に伝えることができるように、まずは自己肯定感をもたせる子どもへの支援や環境の工夫を図ります。

(2) 一③について

小学校の先生の回答で一番多かったものが、「思考力の芽生え」でした。学年が上がるとマイナスとなっていく傾向も見られました。幼稚園では、その土台を作る大切な時期です。ひとやもの、ことに出会うとき、「どうしてできるんだろう」「どうなっているんだろう」「できるようにになりたいな」という素直な疑問や願いを大切に、そこにじっくりと向き合い、試したり考えたりできるような十分な時間と環境を大切にしていきます。

幼稚園は、子どもたちにとって、集団生活を学ぶ場であると同時に、思い切り自分を表現して遊びを楽しむ場でもあります。やりたいことを思う存分に楽しむ中には、たくさんの学びがあります。子どもたちがどのような体験をし、そこでの関わりを通して、どのような学びをしているのかを分析することで、体験がより豊かなものになるように環境を整えたり、その子の育ちに即した援助をしたりすることができると考えています。皆様のおかげで今年度の課題が明確になりました。ありがとうございました。次年度に向け改善に努めます。



ありがとう 心を込めて！

「年長さん、ご卒業おめでとうございます」「ありがとうございます」「一緒に遊んでくれてありがとうございました」「どういたしまして」「小学校に行っても元気で仲良く頑張ってください」「はい」「みんなのこと忘れないよ。ぼくたちわたしたちのこと忘れないでね」「はい」



年長さんからのプレゼント！  
階段を上るたびに優しくした年長さん一人一人の顔が、思い浮かびます。  
年長さん、ありがとう！

3月15日のお別れ会の言葉です。さくら組みんなで一生懸命に考えた心のこもった言葉でした。その言葉を聞いた年長さんからの自然なつぶやきに、学年を超えた心のつながりを感じ、胸が熱くなりました。

“優しくしてくれてありがとう” “ドロケイのやり方を教えてくれてありがとう” “お店やさんに呼んでくれてありがとう” …とても素直なありがとうの気持ち。“ありがとう”という言葉は、言われた人も、言った人も、心をポカポカにしてくれる素敵な言葉ですね。

これからも、子どもたちのありがとうの言葉が響き渡る幼稚園でありたいと思います。